

大分教育事務所訪問②-50 (計 123)

大分市立竹中中学校に学ぶ

学校経営から学ぶ

本校の素晴らしい点は、それぞれの取組を徹底してつなぐことです。

とりわけ、学力向上においては、朝学習、授業、7時間目学習、家庭学習、さらには生徒会の定期テスト対策等を連動させることで、学力の定着のみならず、授業における深い学びにつながっています。

そして、行事を通して人権教育を推進することや、主に道徳の授業改善を通して、竹中小との小中一貫教育につながっています。

また、コロナ禍における生活習慣の改善についてはPTAと連携し、保護者が中心となって、家庭での読書やメディアコントロール、親子でできる体力づくりを提案しています。さらに、地域とのつながりは、「愛のはがき活動」に取り組む等、素晴らしい企画力をもって新たな実践を行っています。

これからも、ますます「つなぐ」ことでより効果的な教育活動を行うために、教職員や保護者が何をするという取組指標だけでなく、それぞれの行事や授業において、生徒達にどのような資質・能力を育成するかをより明確にされると、生徒達自身が資質・能力を意識し行動することにつながると思いました。また、学校として育成を目指す(教科横断的な)資質・能力を設定することで、教職員だけでなく、地域や保護者もその目標を意識することができ、協働的な取組がより進むことになると思われました。

※参考資料「中学校学習指導要領解説 総則編 P52 2教科等横断的な視点に立った資質・能力」



NO.552 2021年11月 大分市立竹中中学校

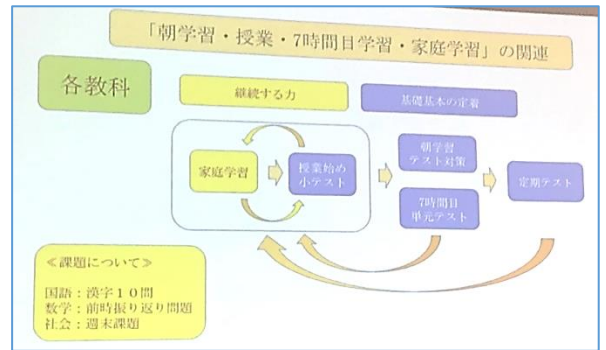
鍛えあう

時に競い合うことを通して、共に成長する。そして、相手の良さを認めることができる。

授業から学ぶ

全学級の授業を参観させて頂きました、ペアや班学習が日常的に行われ、タブレットを文房具のように活用している姿が印象的でした。また、本時のねらいも「追求対象、着眼点、到達点」が示されており、日常から意識されているのでしょう。

今後は、つぶやく場と発表する場のメリハリや、発言者の話しは最後まで聞くような学びに向かうための学習の約束を生徒会と共に考えると良いかと思いました。また、指導案の「振り返り」においては、教師が願う具体的なゴールの姿を「生徒を主語」にして表記することで、教師が考えた「振り返り」と生徒が実際に書いたものとの違いを分析をしたり、「めあて」との連動、評価規準との整合性について互見授業を通して協議したりすることで、授業改善がより推進されると思いました。



NO.551 2021年11月 大分市立竹中中学校

学びあう

教えてくれてありがとう。自分の説明でわかってくれてありがとう。共に成長を感じる。



NO.550 2021年11月 大分市立竹中中学校

認めあう

自分の考えを主張するだけでなく、相手の思いに立つてみることで、考えの幅が広がる。